

クリニックレポート

今月の話題：ピロリ菌



暖かい日も増え、春の訪れを感じる季節となりました。今月はピロリ菌についてご紹介します。正式名称は「ヘリコバクターピロリ」といい、ヘリコとは「らせんや旋回」という意味があり、ひげの部分も回転させて移動します。(ヘリコプターのヘリコは同じ意味です。) 衛生環境が良くなかった年代に感染している人が多く、60歳以上の人では60~70%、衛生環境が整備されるにつれて、感染率は低下し、10代では10%を切るまでに減少しています。感染しているからといって、潰瘍や胃がんが必ず発症するわけではありません。しかし、ピロリ菌が原因で胃の粘膜を防御する働きを弱め、ストレス、塩分の多い食事、発がん物質などの影響により、胃粘膜を傷つけて胃の痛みや膨満感、消化不良、胸焼けなどの症状が起こります。慢性的な炎症が続くと、胃の萎縮、胃潰瘍や胃がんなどの原因になります。胃がんの原因となりうる、慢性胃炎や胃潰瘍など上部消化器の不調を取り除くためには、ピロリ菌の除菌が必要となります。胃などに症状がある方は、消化器内科に受診またはご相談ください。

ピロリ菌を除菌したら大丈夫!?

ピロリ菌の除菌は胃がんになるリスクを30%程度低下させます。がんにならないわけではありませんので、その後も定期的に健診を受けましょう。

萎縮性胃炎がある場合は、ピロリ検査とピロリ菌の除菌を!!

ピロリ菌感染検査

- ① 内視鏡検査（胃カメラ）
胃の組織の一部を採取し、培養をしたり、染色したりしてピロリ菌がいるか調べます。
 - ② 抗体検査（血液、尿）
 - ③ 呼 気 検 査
 - ④ 抗 原 検 査
- 痛さが無い事、検査費用が安いことなどメリットもあり。
※詳しくは受診される医療機関にお問い合わせください。

ピロリ菌の除菌方法

抗生物質を2種類。胃酸分泌抑制薬を1種類投与されます。これらの治療薬を1週間服用します。除菌率は約80%です。



抗生物質は副作用の可能性があります。症状としては腹部症状として、腹痛、軟便、下痢などがあります。発疹、肝機能障害が出現する場合もあります。

※詳しくは除菌される医療機関にお問い合わせください。

参考：ピロリ菌ガイド HP